

第1回

働き盛りの『若年認知症』

高齢者だけでなく、誰でも発症する可能性のある認知症。とりわけ働き盛りでの発症は、本人と家族にとって、とても大きな負担となります。今回から数回にわたって、「若年認知症」を主題に、本人と家族の会「オアシス虹の会」が行ってきた取り組みについてご紹介します。

ライター 野原 優子=文

若年認知症と 高齢の認知症

65歳未満(18歳〜64歳)で発症する認知症を『若年認知症』と呼びますが、原因になる病気や現れる症状は、65歳以上で発症する高齢者の認知症と病理学的に違いがあるわけではないと言われています。

平成21年春の厚生労働省調査では、日本国内に推計37,750人の患者がいると発表されましたが、実数はこの3倍以上ではないでしょうか。人知れず悩んでいる本人や家族、うつ病など他の病気と診断されているケースが相当数見逃されていると感じます。

高齢者の認知症に比べ、体も心もエネルギーレベルが高いために、本人と家族の苦悩も大きく、経済的問題、社会的な無理難題など、周辺環境もまだまだ大変厳しい状況にあります。

今回お話を伺った方



医療法人 笠松会
天神オアシスクラブ 施設長
若年認知症「オアシス虹の会」代表

中島 七海(なかしま ななみ) さん
看護師・認知症介護指導者・若年認知症専門員

平成18年に、福岡で初めて若年認知症の本人と家族の会を立ち上げた中島さん。現在は会の代表として全国家族会・支援の会にも関わっている。「50代の認知症の方と実際に会って、本当に大変で、高齢者とは違う問題点があるなあ、と。その気づきと“何とかしたい”という思いが、新たな支援者の会発足のきっかけになりました。」

若年認知症の人を支えるために

特に働き盛り、一家の大黒柱や子育て真っ盛りのお父さんお母さんが発症した場合、家族への影響はとても深刻です。この病気はとにかく早期に対応できるかどうかで、その後の生活が大きく左右されますので、少しでも「おかしいな？」と思ったら、できるだけ早く認知症専門医の診断を受けることが大切です。

家族会や支援団体の働きかけを受けて、

今では国も無料相談コールセンターを設け、福岡県・福岡市も独自の取り組みをはじめています。私たち『オアシス虹の会』も、若年認知症のご本人(疑いのある人も含む)とご家族ならどなたでも参加できる集いと情報交換の場として、天神のまん中、福岡ビル7階で2ヶ月に一度会合を開いていますので、ぜひ一人でも多くの皆さんに活用していただきたいと思います。



認知症になっても、話を聞いてくれる人がいれば、本人も心を開いて前向きになります。その姿を見て、家族も救われる。そんな場がもっともっと広がっていくといいですね。



取材当日の天神オアシスクラブでは、「はがき絵」が開講中でした。花と果物等の画材に取り組んでいます。「すごくよく描けましたね!」「年賀状にしたら?」スタッフとの間でも会話の花が咲く。

厚生労働省 若年性認知症コールセンター
ご案内 無料電話相談 / 0800-100-2707 月～土曜日10:00～15:00 (年末年始除く)
◎オアシス虹の会は奇数月の第2日曜日、10:00～15:00に開催 / 本年第1回は1月13日

ホームページアドレス
<http://y-ninchisyotel.net/>



認知症の方は過去の記憶が残っている場合が多いので、「交通の便も良く、認知症の方でも馴染みを持って通えるように」と、天神のまん中、古くからのランドマークでもある福岡ビル内にデイサービス施設を構えた。

取材協力

医療法人 笠松会 天神オアシスクラブ (デイサービス)
〒810-0001 福岡市中央区天神1丁目11-17 福岡ビル7F ◎TEL: 092-712-6500 ◎FAX: 092-712-6517